

平成31年(2019年)3月20日(水曜日)

湧水

選挙の当事者たち

「政治は心」だと思っ
ている。過疎地や中規模
都市、東京などに赴任し
た中で得た確信だ。土地
土地で政治のスケールに
違いはあっても、通わせ
るべきは共通して情。寄
り添う姿勢を忘れないで
い。

そんな趣旨のコラム
を、2013年夏に書いた。
直前の参院選で与党
が安定多数を獲得し、政
権の暴走を心配する声が
上がっていたころ。自分
なりに思いを込めた。

昨年末の三島市長選以

降、市内の空気感に6年
前と似た感覚を抱いてい
る。政治の当事者たちの
感情的な対立が続いてい
るからだ。

選挙は投票率が50%を
切る結果に終わった。す
ると3選した豊岡武士市
長の陣営から「現職が信
任された表れだ」との受
け止めが聞かれた。

現状に不満がないから
投票者が少なかったとい
う理屈らしいが、独善的
でかなり乱暴な解釈だと
感じた。低投票率は民主
主義の危機とも言われ
る、ゆゆしき事態。まし
て最も謙虚さが求められ
る選挙直後に、本心で発

互いに認め合う政治を

した言葉かと驚いた。
三島は歴史的に激しい
選挙を繰り返してきた素
地がある。市長選も駅前
再開発や環境保全を課題
に1年以上も前から水面
下で激的な政治的駆け引
きが展開された。

激しさゆえに、相手と
の融和が図りにくい事情
は理解できなくもない。
市長選から半年もたたな
いうちに次の選挙(統一
地方選)が控える政治日
程も、歩み寄りを阻害し
ている面がある。

しかし、それを乗り越
えてこそ政治行政の成
熟度が高まるとは思え
ないだろうか。当事者が

互いに敵意を隠さない
構図を、未来ある子供た
ちに見せられるだろう
か。

2年半、三島に住み、
仕事をし、いいまちだと
実感した。でも将来バラ
色では決してない。対立
する側の存在を認め、そ
の持ち味を生かすような
懐の深い市政運営をせひ
実現させてほしい。敗者
の側も当然、相手に敬意
を持つことだ。政治の
多様性への挑戦といっ
たところか。そのことが
きつと市民の政治参加に
もつながると信じてい
る。

(三島支局・河村英之)